

船 団

第116号

特集

俳人の評伝

長谷川 博

割り切つて生きて九月のガリガリ君
二百十日両肩にはるサロンパス
ピッピツとスマホどすと釣瓶落とし
星月夜わたしが0になる時間
文化ノ日ワタシハ古希ノ宇宙人
小春日や老いは追ひ追ひノーテンキ
長生きは素敵で無敵冬銀河

波戸辺 のばら

迷つても笑顔のみんな神の旅
大銀杏散る時きつとフランス語
老いの顔美事にならぶ芋煮会
林檎かじるのに躊躇する前歯
青いバラ爪に咲かせて冬に入る
街闊歩昭和に買ったセーターで
落葉蹴るジャンヌモローになりきつて

● 会員作品 ●

羽田 英晴

ひとりずつ少女が消える春夕焼
教室に残されているお雛さま
春の闇差し込んでみるコンセント
チューリップががんばっている町役場
ハイと手を上げてウミウシしゃべりだす
もんしろちよう沖は鯨が潮を吹く
仁和寺はとてもダンスで桃の花

林 せり

長き夜やぶつちやけている小抽出し
連合いを穴場と思う秋の夜
利き腕を使わぬ書道石榴の実
手が書くか脳が書くのか美術展
返り花見つけた気分ブックカフェ
願望にアイロンかける神の留守
冬の虹胸中の鬼野に放つ

林 豊美

有明の君はまあるく眠ってる
花野まで案内人は笛を吹く
老犬の鼻しつとりと星月夜
お母さんおこげできたよ栗ごはん
友だちは要らない今日は秋のバラ
ひざ上に老犬と本小鳥来る
新米を白の茶碗に八分目

林田 麻裕

墓参り満足にして手を洗う
墓参り満足にしてお茶を飲む
墓参り満足にして餃子食う
墓参り満足にして酢豚食う
墓参り満足にして中華丼
墓参り満足にして電車乗る
墓参り満足にして美術館

● 会員作品 ●

原 ゆき

ことりくるひざしのなかのさようなら
月に葉脈のありそう波がしら
明け方です満月はもう汚れます
青空に青空棲みぬ十一月
つま先に沈むだんつう鶴の首
窓の海いつも傾く寒卵
方眼紙インフルエンザわが喉に

阪野 基道

秋寂びて空蟬背なを閉じにけり
凍蝶を起さぬように柩置く
だいだいは隅から傷む少年も
枯蠓螂やや重たくて水になる
喪服着て白鳥に会うことは稀
しずり雪ほどの隙き問に国の影
身中に火と水生かされており御慶

東 英幸

銭湯に老いたやくざと夏の月
定期船熟女いきなり缶ビール
葛の花亀のひよっこり現れる
天高し「野ボール」という無人駅
妻の膝に秋が来ているという会話
秋雨前線自由席はどこですか
椋鳥の空の南北擁むなり

火箱 ひろ

かなかなかな十月十日を逆さまに
月光に濡れて玉子をぼこと産む
虫の闇静かに甕が割れている
虫籠にことんと寝落ち弟は
月見団子ぼくり大人になり過ぎた
この星をもう逃げ遅れ運動会
鳳仙花種飛ぶ今のちよつと先

● 会員作品 ●

陽山 道子

鯉が飛ぶ端っこばつか行く少年
空は秋一度で通る針の穴
秋霖のトトロになつて長谷川君
梨提げた隣りの男ベル鳴らす
真昼間の行きかう秋のゼブラゾーン
すいっちょん文殊菩薩の黒光り
望郷の猫も杓子も山も雪

平井 奇散人

春浅し名刺の裏の誕生日
町かどの電柱が消え春の雲
少しだけ変わった君は犬ふぐり
空缶もカラカラ転ぶ寒の明け
地球儀も回せば春も大飛翔
口溶けのチョコほうばるは壬生の面
片意地な奴の土産は干菓

つじ あきこ

かなかなや開けっぱなしの家が好き

夫の一日妻の半日秋の空

歯並びのきれいな親子柿熟れて

臭木の実十一人の観察隊

晩秋の坂道同じ鞆持ち

いい顔でちよつと疲れて柿日和

紅葉散る散る大人も子供も変声期

津田 このみ

行く秋の一語零れて転がって

息吸って吸ったままなる菊人形

小鳥来るあなたはいつも見そびれて

間夜は月光に髪広げたり

秋澄むや土偶の鼻は針の穴

秋の暮虫歯あること思い出す

新松子死後恋文を晒されて

●会員作品●

津波 古江津

おちあうのは階段の下隼人瓜

秋風の身離れの良いゆでたまご

うんうんと馬がうなずく銀河かな

草の花目が合って猫右にゆく

受け唇は月でわたしで黄コスモス

榛の木は月の光に四股を踏む

秋潮のおおきく曲がる母国かな

坪内 稔典

早く死ぬ老人が好き山に雪

希望とは道のほとりの枇杷の花

冬バラをのせてニトリの白い椅子

山に雪ブックカフェの窓開く

山茶花よ黒い牧師が遠ざかる

長崎に住もう枇杷咲く五、六日

つわぶきの盛り全身もみほぐす

中井 保江

男運悪しと笑い梨齧る

おろしたての靴でステツプ木の実降る

戻り橋みんな渡つて冬に入る

橘たわわ嫁に行かない姫あまた

黄落の金を織り込む織り子はん

一年後やわらかくなれ花梨切る

大の字に冬日いっばい崖の家

中居 由美

石積の形不規則小鳥来る

秋の椅子日射しを放し飼いにしして

しじみ蝶がわが影出たり入ったり

夜は閉じる郵便局もりんどうも

船を待つ大かまきりと小かまきり

かまきりのロツクンローラーたる由縁

立冬のたんぽぽたんぽぽ咲く小径

● 会員作品 ●

長沼 佐智

駅弁の鯖大好き坂が好き

スイーツと一族句会夏の雨

影のさやかに鋭角の君の腕

紅葉且つ散る句碑の道恋の道

河馬に逢う三門に逢う冬初め

ブックカフェと勤労感謝の日

講座果て霜月歩く虫籠窓

中原 幸子

盆の月人と生まれて人かしら

朝涼し神奈川大学評論集

オーロラの端っこもらう梨もらう

正しくてずるくてそうだ栗ごはん

粗衣粗食粗住まつ赤な唐辛子

台風は台風本位総選挙

冬銀河までの漂流ブックカフェ